

テーマ名：高度情報化社会に用いる大画面・低消費電力の車室内情報提供装置の開発

助成事業者：株式会社デンソー

共同研究・委託先：北里大学

開発フェーズ
実用化1年+実証3年

重要技術
省エネ型広域網・端末

開発期間における助成金額
3億円以上

対象技術の背景

社会環境の変化に伴い、将来モビリティは大きな変革期を迎えている。車室内情報提供装置には大画面化が求められているが、これに伴い消費電力が増大する。さらに、狭い車室内に大画面の情報提供装置をドライバーの視野の妨げにならないように搭載する必要がある。

テーマの目的・概要

眼光学に基づいた安全で見やすい表示手法と、車載環境において消費電力を増大させない輝度の最適制御を両立し、かつ大画面を曲面にすることで車室内への搭載を可能にした車室内情報提供装置を実現する。

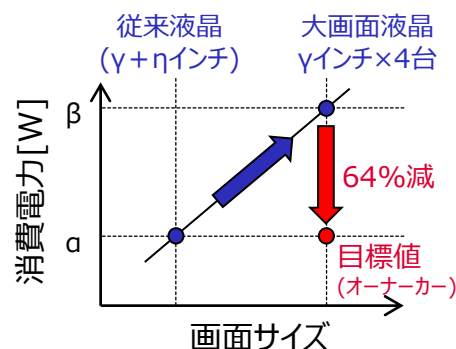
省エネ効果量 (原油換算) (国内)	製品化から3年後	2030年
	2.3万kL	18.3万kL

見込まれる成果の説明

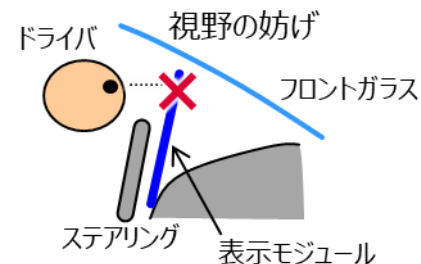
開発品を市場導入することによって64%以上の省エネ効果が見込まれる。本技術は、自動運転が想定されるオーナーカーやMaaS*向けシェアカーに搭載が見込まれる。

* Mobility as a Service

■ 大画面化と消費電力



■ 大画面による視野の妨げ



■ 車室内情報提供装置(オーナーカー向け)



省エネルギー技術開発のポイント

本開発は将来モビリティにおける大画面情報提供装置の省エネルギー化を目指す。